

許せぬ差別運賃

北総線値下げ
裁判で報告会

千葉県の北総線などを利用して走る成田新高速鉄道（京成電鉄・成田スカイアクセス）の開業にあわせ、北総線がわずかな運賃下げを実施した17日、「北総線値下げ裁判の会」（武藤弘会長）は千葉県白井市内で報告会を開きました。

京成電鉄が申請した高速鉄道（東京都心―成田空港間）の運賃を国は2月19日に認可しました。しかし下げ幅はきわめて小さく、沿線住民からは不当な認可だという批判が上がっています。

会は国に対し▽成田スカイアクセスの上限運賃の認可の取り消し▽京成電鉄が北総線に払う線路使用料の認可の取り消し▽北総線に対し運賃を引き下げることなどを裁判に訴える予定。準備状況を報告した武藤氏は「7月末くらいには提訴したい」と述べました。原告団の一人は「日常生活で利用する人には高く、空港利用者には相応な運賃になっている。利用者によって別々の運賃は許せな

い。適正な運賃に下げろという意味で原告団に加わりました」と話しました。

原爆症認定 集団訴訟支援 千葉の会が総会

原爆症認定集団訴訟を支援する千葉の会の総会が17日、千葉市内で開かれ、命がけのたたかいで原告（第1、2次計8人）が勝ち取った勝利判決や今後の課題について話し合いました。

同訴訟は2003年5月に第1次を開始、今年5月に2次の判決を終えました。

高橋稔会長があいさつ。宮原哲朗全国弁護団連絡会事務局長、山本英典全国原告団長、日本原水爆被害者団体協議会の田中照巳事務局長が来賓あいさつ。宮原氏は、幅広い人を結集した千葉の運動、病を押しての弁論や裁判途中での実名公表など県原告団のたたくいの意義を強調しました。

原告の朝比奈隆、市川徳治、岩佐幹三の3氏が出席。「国による被爆者放置、被爆被害の過少評価、被害の受忍は核容認につながる。核兵器を廃絶し、